



さんしのもりけんきゅうじょ

蚕糸の森研究所

令和元年度 2019年4月～2020年3月

5年生 防災研究室

杉並区立 杉並第十小学校



5年生 防災 研究室

研究のテーマ

震災救援所運営連絡会・杉並区役所防災課・消防団の方とともに

- 地域の人々が協力して災害防止に努めていることを理解する。
- 地域の一員として、災害時に自分にできることは何かを考える。
- 地域の人々の願いを知り、地域の一員として活動する。

●杉十小学校で行われている防災訓練に参加してみよう



防災監視盤

蚕糸の森公園には、防災のための施設がたくさんあると学びました。



ゲートシャワー

初めて見る児童が多く、歓声が上がりました。

給水施設

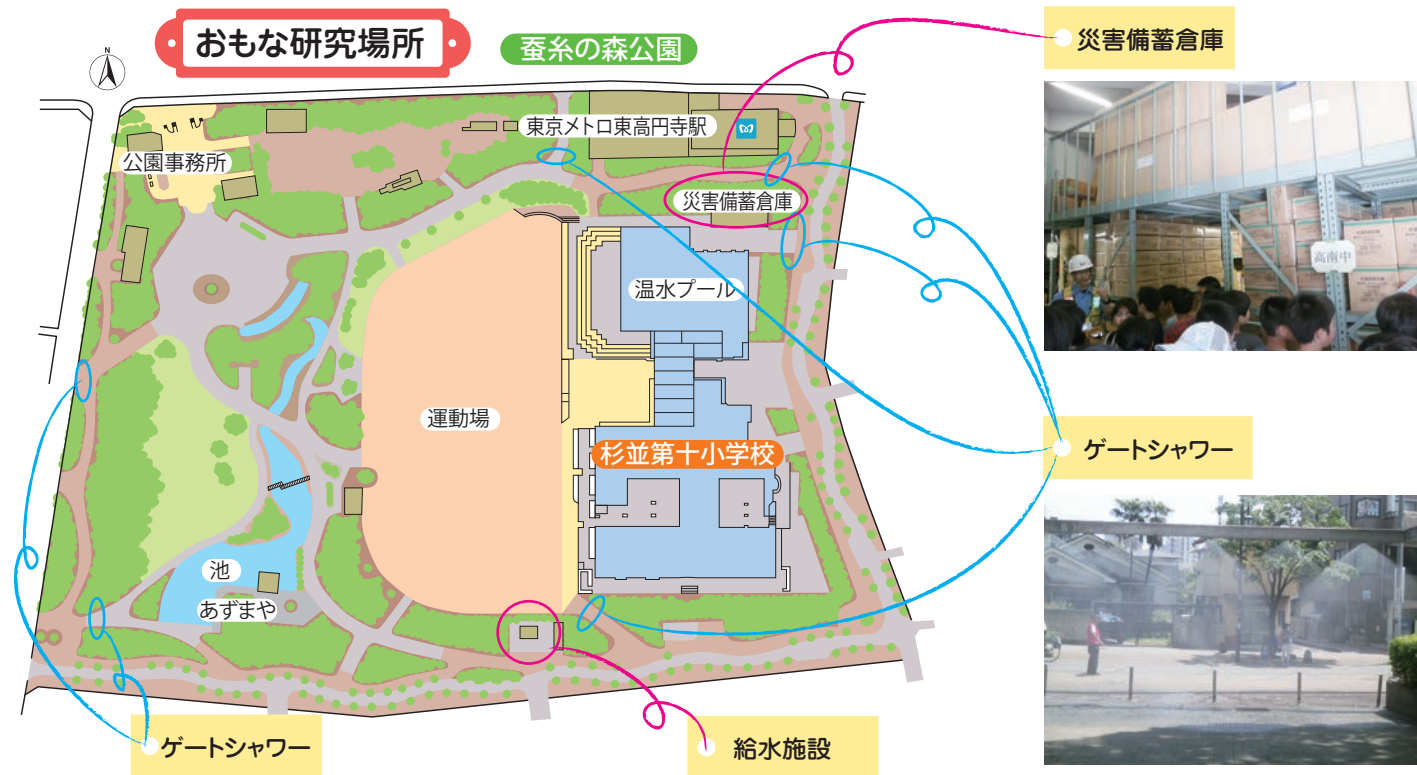
地下にこのような施設があったことに驚きました。



災害時用の水道

学んだこと

- ・杉十にはいろいろな防災施設があることが分かった。
- ・ゲートシャワーや放水銃が災害時にどのように使われるのか分かった。
- ・杉十には、他の学校にはない施設がたくさんあるんだな。



災害備蓄倉庫



ゲートシャワー



2019年

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

2020年

1月

2月

3月

●防災訓練・防災体験に参加しよう 震災救援所訓練でAEDや三角巾を使った救急救命体験

AEDの使い方

胸骨圧迫をすることで「命をつなぐことができるかもしれない。」と知りました。



心臓マッサージの仕方も学ぶことができました。

三角巾は、いろんな使い方があったんだ。

学んだこと

- ・AEDや三角巾の使い方が分かった。
- ・災害時に自分でもできることがあるんだ。

●赤十字社災害学習プログラムの体験 新聞紙を利用したスリッパ作り



いえまで
すごろく



災害時には、こんな行動をとればいんだ。

●杉十小は災害が起きたとき、どのような場所となるのだろう

蚕糸の森公園や学校周辺にある看板や表示を探し、写真を撮る。



防災施設としての杉十小や公園についてもっと調べたい。

学んだこと

- ・蚕糸の森公園の看板や表示の写真がいっぱい集められた。
- ・撮った写真を整理、分類すると、蚕糸の森公園も防災に関係している公園なのかもしれない。

タオルとお湯を利用した 簡易おしぼり作り



これで体が拭けることを体験。

学んだこと

- ・身近なものを使った応急手当の仕方が分かった。
- ・避難生活時に役立つ技術はたくさんあるね。
- ・自分たちにもできそうなことがいろいろある。
- ・普段知らなかったものや、気付かなかったものがたくさんあった。

●地域の方々からお話を聞く

震災救援所運営連絡会の話し合いを聞く



震災救援所所長の方からお話を聞く



学んだこと

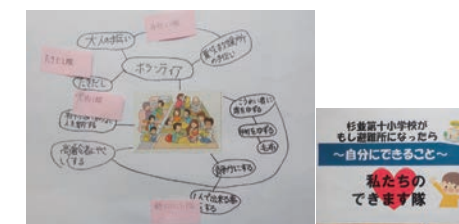
- ・実際に避難所となった時の様子を知ることができた。
- ・杉十小や蚕糸の森公園は災害時に地域の方を助ける防災施設として重要な役割があることを知った。
- ・自分もこの地域の一員としてできることを考えたい。

●災害が起きたとき、杉十小の一員として自分にできることを考えよう

①災害時の自分たちの状況を想像して、ウェビングマップにまとめる。



②学校が避難所になった場合、5年生として自分たちに何ができるかをグループで考えてウェビングマップにまとめる。



③自分ができることを選び、「できます隊」「できるようになり隊」を結成。



④「できます隊」「できるようになり隊」として自分たちがやりたいことや、できるようになりたいことを具体的に考えて発表。



児童の学びの振り返りと成果

課題解決のプロセス



地域の方からの話を聞いて、震災救援所のことを学び始めたころの振り返り

【Aさん】震災救援所のことを全然知らなかったの、すごく勉強になりました。救援所のルールを中学生が作ったというのは、すごいなと思いました。私も地震などが起きたら、手伝いたいと思いました。

【Bさん】本当に地震が来たら慌てちゃうと思うけれど、救援所のことを知ることができてよかったです。しっかり準備しておくことが大切だなと思いました。

【Cさん】救援所の方に本当に感謝です。一人でも早く助けてあげたいという気持ちが伝わってきました。私もこれから自分なりにできることをしていきたいです。

【Dさん】「初動要員の人も被害者」という言葉が心に響きました。救援所所長の山口さんのお話は、ほとんどが人のことを考えた言葉でいいなと思いました。

【Eさん】日頃から、「もし起こったら。」のことを考えておかなくては、と思いました。山口さんやボランティアの人が良く考えてくれているんだなと思いました。

「できます隊」で、杉十小が避難所になった時に、自分たちにできること考える学びをした後の振り返り

【Aさん】私は「作り隊」でした。新聞スリッパなど自分たちでも簡単にできるものがあってよかったです。本当に地震が起きてもきっと大丈夫だと思いました。

【Bさん】友達の「やります隊」の発表がよく分かりました。実際に杉十小が避難所になった時に、私たちにもできることがたくさんあるんだなと思いました。

【Cさん】みんなで協力して、杉十小が救援所になった時のことをイメージして考えました。私は「人のことを考え、気を遣い隊」でした。気を遣いたいことが、思ったよりたくさんあるな、と思いました。

【Dさん】意外と自分たちにできることはあった。きっと本当に災害があった時に、役に立てると思う。普通に生活している中で、もっとできることを探したい。

【Eさん】意外と、自分ができることはたくさんありました。どれも役に立てそうだな、と思いました。実際に災害が起きても大丈夫だなと思いました。（本当は起きて欲しく無いけれど）

成果と課題

成果

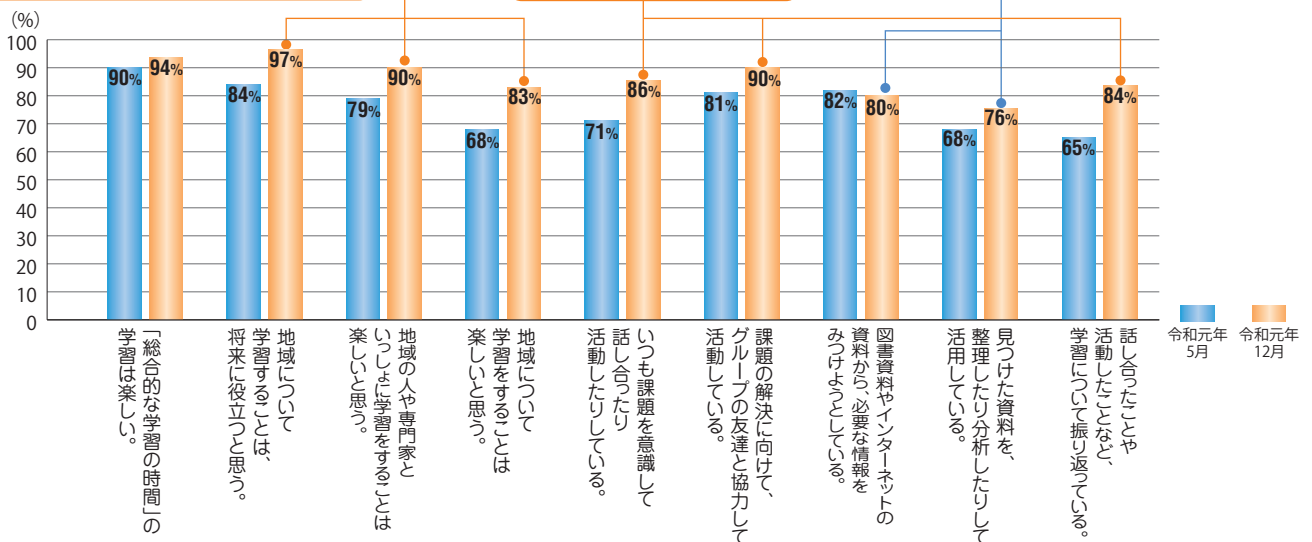
地域との連携を通して、地域の方たちの努力や思い・願いを知れたことが「自分たちも協力したい。」という児童の意欲を向上させた。
体験的活動を多く取り入れたことが有用感・充実感につながった。

成果

課題別グループ・学び方・表現方法の多様化⇒主体的・対話的な学びにつながった。
(学びの構造転換)

課題

調べ方・情報の収集・活用の仕方を見事に考えさせる活動を今後、取り入れていく。



「蚕糸の森研究所」各学年研究室

